

母性看護学実習

I. 目的

周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児及びその家族への看護ができる基礎的能力を養うとともに、生命観、両性の役割についての考えを深めることができる。

II. 目標

1. 妊娠各期の経過を理解し、対象に応じた看護が理解できる。
2. 分娩期の経過を理解し、対象に応じた看護が理解できる。
3. 産褥期の経過を理解し、対象に応じた看護ができる。
4. 新生児の生理的な特徴を理解し、母体外生活への適応が援助できる。
5. 母子分離にある対象を理解し、療育環境と家族への関わりが理解できる。
6. 周産期にある対象の看護を通して、生命の尊さと自己の母性観および父性観が述べられる。

III. 実習時期

2年次後期～3年次後期

IV. 実習場所

岡山医療センター：6 A病棟、産婦人科外来
5 B病棟（NICU）
福山医療センター：2 A病棟、産婦人科外来

V. 行動目標および学習内容

実習目標	行動目標	学習内容
1. 妊娠各期の経過を理解し、対象に応じた看護が理解できる。	1) 妊娠経過に応じた身体的、精神的、社会的変化が述べられる。 2) 妊婦健診・検査の内容を理解し、異常の早期発見の必要性が述べられる。	妊娠各期の生理的变化（妊婦の正常な経過の観察、児心音の聴取） 妊娠期の心理的变化（妊娠に対する思い、児に対する思い、妊娠の受容、家族の反応、出産・育児に対する期待・希望・不安） 妊娠期の社会的変化（妊婦の勤労、家族機能の調整、出産や育児の準備） 妊婦健診・検査：血圧、検尿（尿蛋白、尿糖）による異常の早期発見の意義、採血の意義（感染症および貧血の確認）、妊婦の推奨体重増加量の把握、妊娠週数と胎児推定体重との関係、妊娠末期のNSTの装着と判読 産科診察法の介助（プライバシーの配慮）、問診（妊娠週数の確認、予定日の算出）、内診（内診台の操作、介助、必要物品、清潔操作）、外診（診察介助、レオポルド触診）

実習目標	行動目標	学習内容
	<p>3) 妊娠期の健康を妨げる日常生活行動を理解し、健康な妊娠期を送ることができるように日常生活指導の方法が述べられる。</p> <p>4) 妊娠期や産褥期に行われる集団指導の方法や効果が述べられる。</p>	<p>社会資源の活用（母子健康手帳の交付、内容の理解、健康診査受診票の利用（無料券））</p> <p>妊娠各期に起こりやすい異常と予防、（マイナートラブル、切迫流早産、妊娠悪阻、貧血、膣炎、妊娠高血圧症候群、膀胱炎、静脈瘤、腰痛、便秘、浮腫、骨盤位など）、個別指導の実際（食事指導、体重管理、安静、活動、服薬管理など）</p> <p>集団指導の実際（母親学級、育児学級）</p>
<p>2. 分娩期の経過を理解し、対象に応じた看護が理解できる。</p>	<p>1) 分娩第1～4期の経過と異常の早期発見の必要性が述べられる。</p> <p>2) 分娩経過に伴う身体的・精神的苦痛を理解し、産痛緩和や産婦ニードの援助方法が述べられる。</p> <p>3) 出生直後の新生児の観察や処置について述べられる。</p>	<p>経膣分娩各期の経過（陣痛、胎児心音、産痛部位、子宮口開大度、破水、分泌物）、CTGの判読、分娩各期の身体的特徴、分娩期の心理的特徴、分娩の進行を妨げる要因、分娩時の感染防止の必要性、異常分娩の経過（帝王切開術の看護）、胎児娩出、胎盤娩出、早期母子接触、子宮底輪状マッサージ、会陰縫合、出血量、胎盤計測</p> <p>産痛緩和法（マッサージ法、圧迫法、温罨法、呼吸法）、陣痛促進するための援助、子宮内感染の防止、産婦の日常生活への援助（食事、水分補給、清潔、更衣、排泄、睡眠）</p> <p>出生直後の新生児の観察（アプガースコア、バイタルサイン、外表奇形の有無）、出生直後の新生児のケア（保温、点眼など）</p>
<p>3. 産褥期の経過を理解し、対象に応じた看護ができる。</p>	<p>1) 妊娠分娩経過をふまえて産褥経過を述べられる。</p> <p>2) 母乳育児の重要性を理解し、乳汁分泌の促進と授乳の援助ができる。</p>	<p>産褥経過の観察（乳房、乳頭の状態、乳汁分泌、子宮復古の状態、悪露の観察、全身の回復状態）、産褥の経過に影響を及ぼす妊娠・分娩中の異常、産褥期に起こりやすい合併症予防の援助、心理的变化と影響する要因（マタニティブルーズ、産後うつ病）</p> <p>進行性変化への援助（母乳育児の利点と必要性、直接授乳の介助、乳房マッサージ、乳管開通法、搾乳、栄養指導）</p>

実習目標	行動目標	学習内容
	<p>3) 子宮復古現象促進のための観察と援助ができる。</p> <p>4) 母親役割取得や適応過程に向けた援助ができる。</p> <p>5) 母子をとりまく社会資源の活用を理解し、継続看護の必要性が述べられる。</p>	<p>退行性変化への援助（子宮復古の促進、悪露、後陣痛、縫合部痛、排尿障害、便秘、脱肛痛）、日常生活の援助と指導（栄養、排泄、活動、休息、清潔、睡眠）</p> <p>育児技術獲得への援助と指導（オムツ交換、更衣、授乳指導、沐浴指導、退院指導）、母子相互作用と愛着形成、愛着理論（ボウルビー）、母子相互作用（クラウスとケネル）、母性の主観的体験（ルービン）、バースレビュー、母親と児の表情</p> <p>関係法規：（母子保健法、戸籍法、労働基準法等）、母子健康手帳の活用状況、出生届、電話訪問、1週間健診（福山）、2週間健診（岡山）、1ヶ月健診、地域への連絡票</p>
<p>4. 新生児の生理的特徴を理解し、母体外生活への適応が援助できる。</p>	<p>1) 新生児の日齢に沿った生理的特徴をふまえた観察ができる。</p> <p>2) 新生児に必要な援助ができる。</p> <p>3) 新生児に行われている検査、与薬が述べられる。</p>	<p>新生児の正常な経過、新生児の生理的特徴（生理的体重減少、生理的黄疸、原始反射、哺乳状態、哺乳量、便・尿の性状、応形機能、産瘤、頭血腫）、新生児の観察と評価（生理的特徴と異常）</p> <p>沐浴、清拭、新生児に適した環境調整（室温、湿度、感染防止、安全の確保と事故防止）</p> <p>新生児に行われている検査、与薬、黄疸（ミノルタ測定、ビリルビン測定）、ABR、先天性代謝異常検査（ガスリー検査）、ビタミンK投与、血糖測定</p>
<p>5. 母子分離にある対象を理解し、療育環境と家族への関わりが理解できる。</p>	<p>1) 母子分離を余儀なくされた母親及びその家族に対する援助が述べられる。</p>	<p>NICUの構造・機能・設備、光環境、音環境、ハンドリング、ポジショニング・ホールディング、母子相互作用環境</p> <p>母子分離に伴う家族の身体的側面・心理的側面への影響、家族のサポート体制、産婦人科病棟との連携・情報交換</p>
<p>6. 周産期にある対象の看護を通して、生命の尊さと自己の母性観および父性観が述べられる。</p>	<p>1) 生命の尊さと自己の母性観および父性観を考えることができる。</p>	<p>自己の生命観、母性観および父性観</p>